

**話題提供③：  
教室談話の分析とそのむこう**

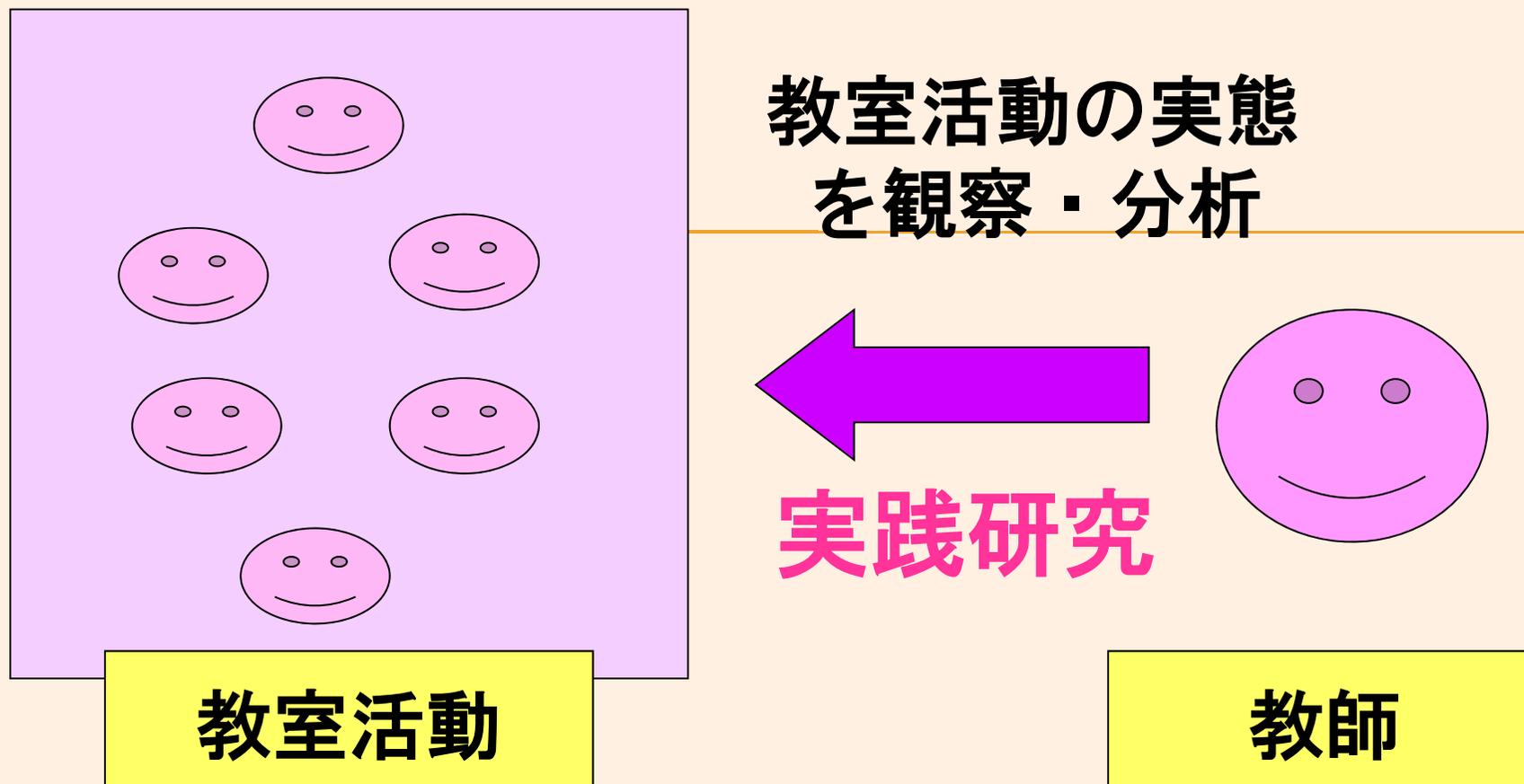
**寅丸真澄**

**早稲田大学大学院**

**日本語教育研究科**

# 1. 問題の所在

## 1.1 日本語教師の実践研究

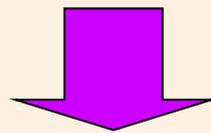


## 1.2 実践研究における会話データ分析

- ・ 研究目的、フィールド、対象等によって教室談話の捉え方も分析方法も異なる。

【例】 ・ 教授方法の効果の検証

- ・ 協働学習における学習者の参加構造
- ・ 授業ボランティアと学習者の関係の不均衡



実践研究にふさわしい方法  
で教室談話が分析される

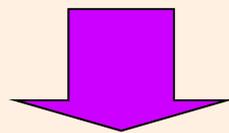
## 1.3 学習者の学び

①測定可能な学び（テスト等による評価）

②測定不可能な学び

⇒教室設計や教室運営に役立つ

⇒授業改善／教師の成長を促進



教室談話の分析によって学習者の  
測定不可能な学びを観察する。

# 【表1】会話データ分析のむこうの3段階 (②実践研究からスタートの例)

A.会話 データ分析	・日本語クラスの実践研究における 教室談話の分析
B.実践への 活用・改善	・教師の「省察」の促進 ・日本語学習のあり方や教室活動 の意義の再考と再解釈 ・授業改善
C.社会的 貢献	・他の教育現場や実践者との問題 の共有化 ・経験と知見の還元 ・学習者の社会性の育成

## 2. 会話データ分析の 社会的貢献の3段階

### 2.1 A段階：会話データ分析

都内大学の日本語クラスにおける  
コンフリクトに関する実践研究  
(認知的葛藤・心理的葛藤・对人的対立)

## 2.1.1 分析対象ークラス概要

特 徴	学習者の主体性を重視した相互構築的な活動
科 目	選択科目としての日本語クラス (都内大学)
レベル 配当時間	中級後半程度 週3コマ／90分×3, 全16週／45コマ
参加者・ 人数	学習者5名 (学習者R, S, U, X, Y) ボランティア1名 (V) 担当教師2名 (T)
活動課題	自由テーマでレポートを執筆 (A4, 5枚以上), 相互自己評価
成績評価	授業参加度/50% (担当者評価) レポート評価/50%

## 2.1.2 分析方法及びデータ

### 【分析データ】

教室活動の会話データ

学習者インタビュー・データ

授業記録，レポート，相互自己評価表

### 【学習者インタビュー】

- ①最終授業における感想会の感想
- ②1年半後に行った半構造化インタビュー  
(個人インタビュー，全9時間57分)

【分析者】 担当教師2名とボランティア1名

## 【手 順】

- ①教室活動の相互行為分析，学習者インタビューの内容分析を行う。⇒会話データ分析
- ②5つのコンフリクトを認定
- ③②のそれぞれについて，6つの視点から考察
  - 教室設計との関係
  - 対象
  - 具体的内容
  - 原因
  - 解決方法
  - 学び・気づき

## 2.1.3 実践研究の課題

- 【課題1】 学習者の主体性を重視した教室活動でどのようなコンフリクトが生じたのか。
- 【課題2】 コンフリクトはどのような過程で生じたように解決されたのか。
- 【課題3】 コンフリクトの経験を通して、学習者はどのような学びを得たのか。

## 2.1.4 コンフリクトの実態【課題1】

### コンフリクトの5事例と教室設計の関係

	教室設計に内包されているもの	教室設計の枠組を超えたもの
個人的な認知的・心理的葛藤	<ul style="list-style-type: none"><li>・書けない ⇒ 〈事例1〉</li><li>・伝わらない</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・書きたくない</li></ul>
学習者間の対人的対立	<ul style="list-style-type: none"><li>・レポートの評価基準選定に関わる対立</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習者個人の先入観に起因した対立 ⇒ 〈事例2〉</li></ul>

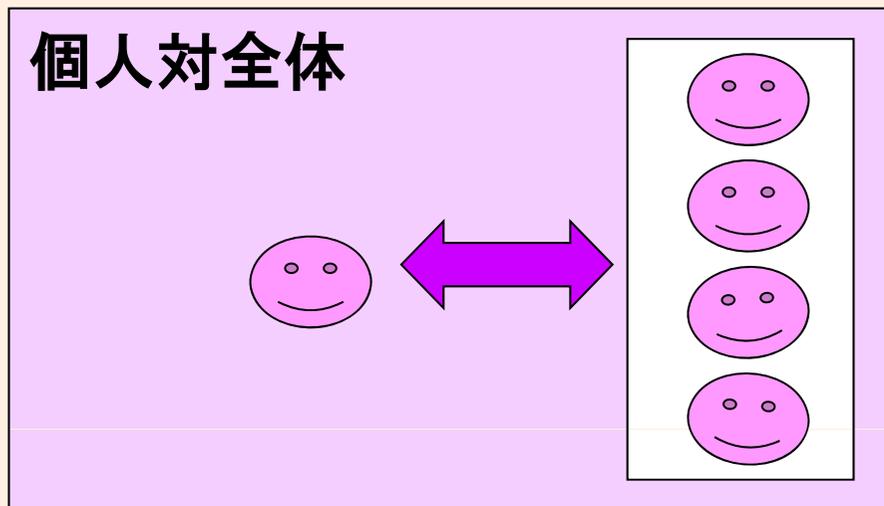
## 2.1.5 コンフリクトの調整・解決の過程

### 学習者Xの場合【課題2】

タイトル：「デモクラシー丸」がしずみかけている

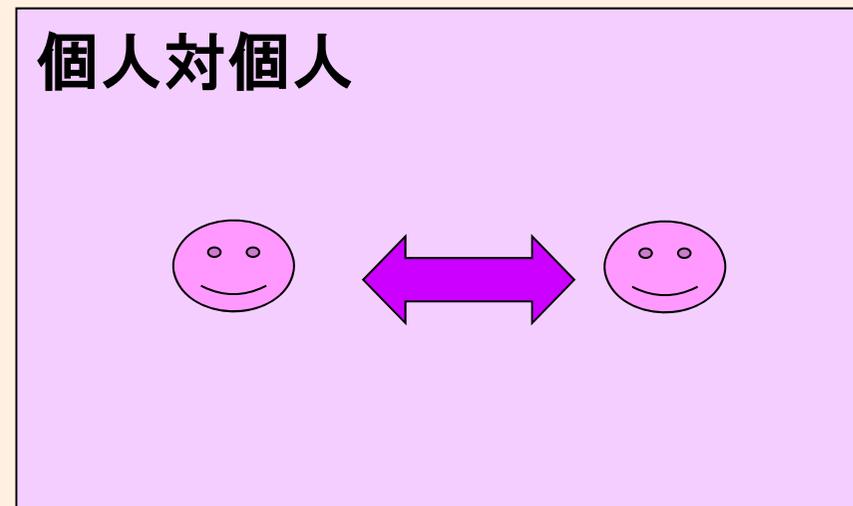
〈事例1〉 書けない

レポートの内容と日本語能力  
が合わないため書けない



〈事例2〉 学習者個人の先入観  
に起因した対立

W国の政治体制を批判したこと  
でW国留学生Yと対立



## 【発話例1-1】

## 書けない状況を表明

89X：そう。なんか、メール、もらったメール、  
何回も何回も読んだけど、こうかなって、ちょ  
っと書いて、えー、でも、なんか、このような  
いっぱいテキスト入って、

90U：あー、すいませんhh

91X：見ると、あー、ダメだなんて。

【教室活動】

## 【事例1-2】

## 書けない状況が続く

- 949T : あっちの動機文のほうはどう？ <1回目の質問>  
950X : え？ <聞き返しによる応答の回避>  
951T : あれから更新しました？ <2回目の質問>  
952X : ん？ <聞き返しによる応答の回避>  
953T : 動機文，動機文のほう。 <3回目の質問>  
954X : 何？ <聞き返しによる応答の回避>  
955T : 動機文，動機文。 <4回目の質問>  
956X : よくわからないけど，こうすると，何も聞こえないから。  
<はぐらかしによる応答の回避>  
957T : h h h <笑いによるコンフリクトの回避>  
958X : 何も h h <笑いによるコンフリクトの回避>  
959T : どういう耳しているの？ <冗談によるコンフリクトの回避>  
960X : そう。 <はぐらかしによる応答の回避>  
961T : 動機文。 <5回目の質問>  
962X : うん，動機文。 <繰り返しによる応答の回避>  
963T : 動機文は更新した？新しくしましたか？新しく書いた？新しく書いた  
というか，追加したことがありますか？ <言い換え／6回目の呼びかけ>  
964X : いつも書いているから。 <はぐらかしによる応答の回避>

【教室活動】

【事例1-3】

少しずつ書き始める

- 1265X : このテーマで5ページ, 7ページぐらい,  
書けるのかな? <不安の表明>
- 1266V : 書けると思う <ボランティアの励まし>
- 1267I : できるよhh <他の学習者の励まし>
- 1268C : hhh (笑いながらうなずく)  
<クラス全体の励まし>
- 1269T : 書ける, と思う。非常に面白いものが書け  
ると思う。 <教師の励まし>

【教室活動】

【事例1-4】

支援を受けて書けるようになる

598I : レベル・アップをしないとかなかなか？

599X : いや，そういうのじゃなくて，えー，アップする前に，3人ぐらいに学校の書いたものを見せてもらって

600T : //見てもらって？

601X : そう。

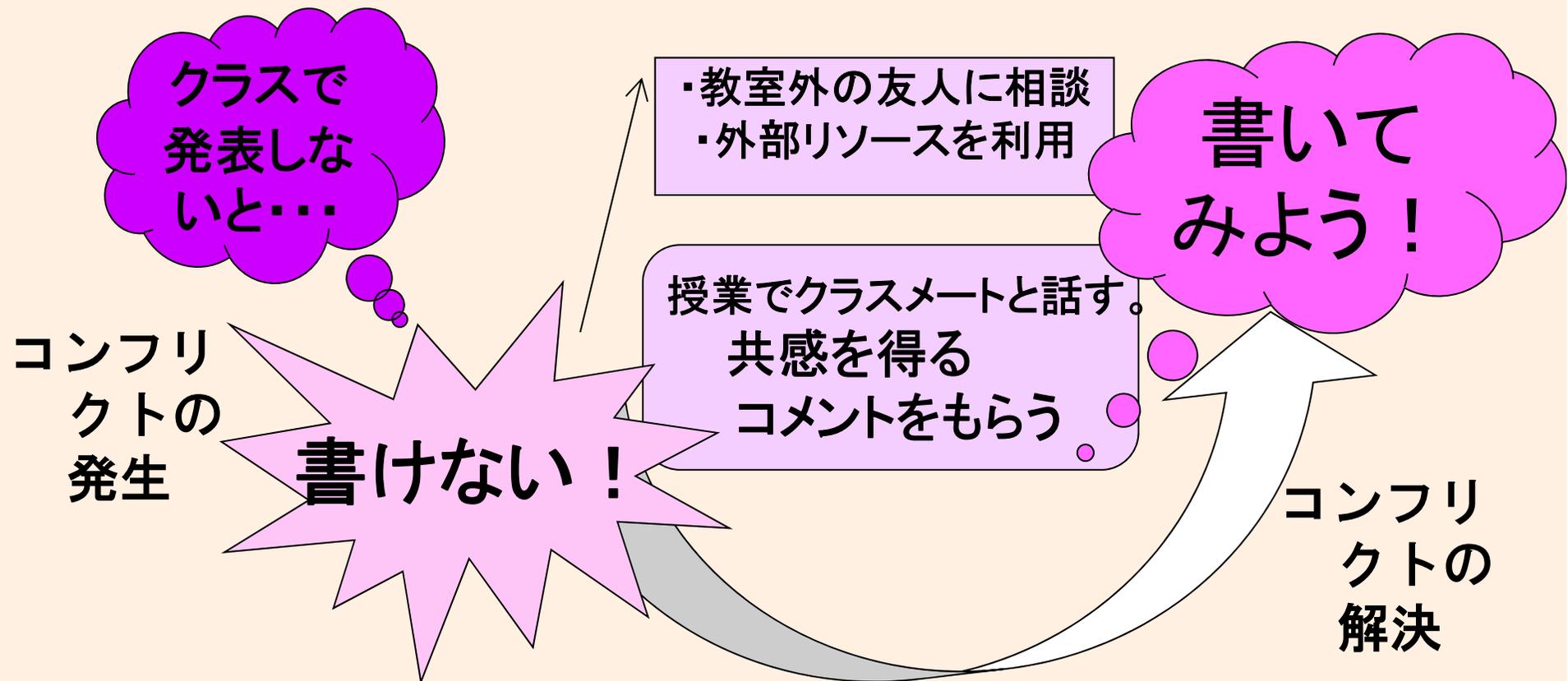
602T : わかる？ってh h

603X : そう，そう。それぐらいと，と，何か，たとえば，書いたものは，あ，これ変だなと言われたら，すぐ書き，書き直すとか。だから，だから，ちょっと時間が，

604T : 時間がかかったわけですね。

【教室活動】

# 【事例1】におけるコンフリクトの学び 【課題3】



教室だけでなく教室外でも学びを構成する

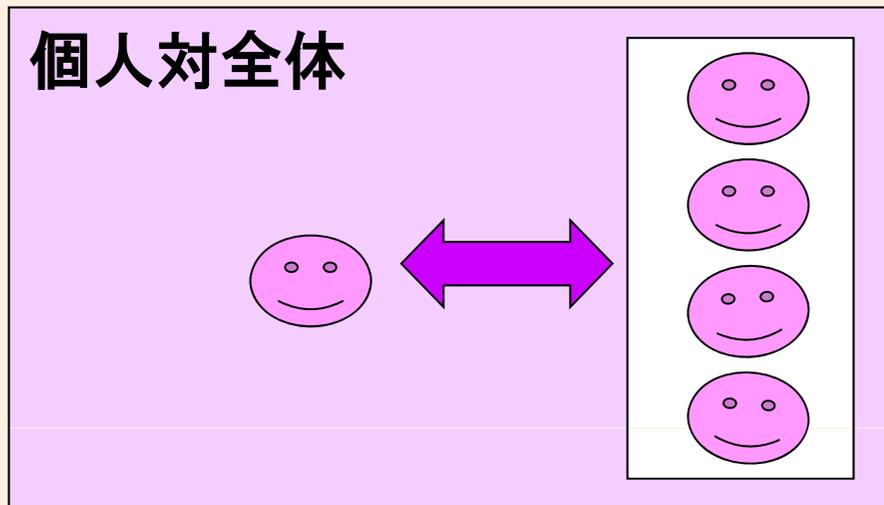
## 2.1.5 コンフリクトの調整・解決の過程

### 学習者Xの場合【課題2】

タイトル：「デモクラシー丸」がしずみかけている

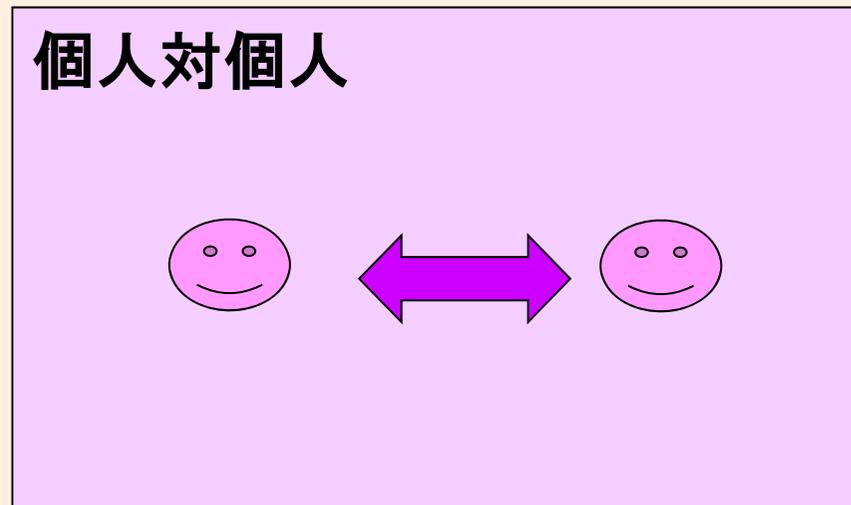
〈事例1〉書けない

レポートの内容と日本語能力  
が合わないため書けない



〈事例2〉学習者個人の先入観  
に起因した対立

W国の政治体制を批判したこと  
でW国留学生Yと対立



W国は政治体制も思想的にも好きにできない。だから、W国留学生のYも好きにできない！

衝突？

学習者X

学習者Y

Z国

W国

## 【発話例2-1】

## 学習者XとYが衝突

29Y：（原稿の英語部分について英語で質問）どこから聞きましたか？  
【1度目の確認】

30X：ん？

31Y：（英語で強く質問）どこから聞きましたか？【2度目の確認】

\*\*\*\*\* <中略> \*\*\*\*\*

302X：（体調が悪いため机に突っ伏していたヤンに対して）帰って  
くださいよ。 【挑発】

303T：ん？（レイが臨席からヤンが突っ伏している机を激しく叩く）

304T：まあ、気にしないで気にしないで。今、がんばってるからね。  
【教師による関係調整】

305Y：（少し顔を上げて）何て言っていますか？【疑問提示】

306S：（A国語で小声で何かを伝える） 【学習者による関係調整】

307X：元気？ 【挑発】

308Y：元気です。 【応答】

【教室活動】

## 【発話例2-2】

## 学習者Yの説得が続く

401Y：小さい頃からずっとW国（Yの母国）からの教育を受けましたから。（X：うんうん）やっぱりW国は悪いの国とかそんなことは話すわけがないと思います。あのう、確かにいろいろな制度とかはほかの国と比べて弱い、よくないの話はよく出ましたけど、（X：はい）そんな直接、直ちにW国は悪い国という話し方はW国ではあまりないと思います。（X：えー）もし、Z国（Xの母国）でZ国は悪い国と言ったら、大丈夫ですか？（X：え？）例えば、Z国は悪い国って。（他の学習者：hhh）

413X：（鋭い口調で）え、言っていていいよ。

【教室活動】

## 【発話例2-3】

## W国に対する意識が変化

94X： ちょっとなんか，W国人に対しての，なんか政府とか，W国の世界における立場とか，そういうふうのを聞いて，まー，まあね，悪くはないですね，と，そういうこと，ま，わかるようになりました。

【インタビュー】

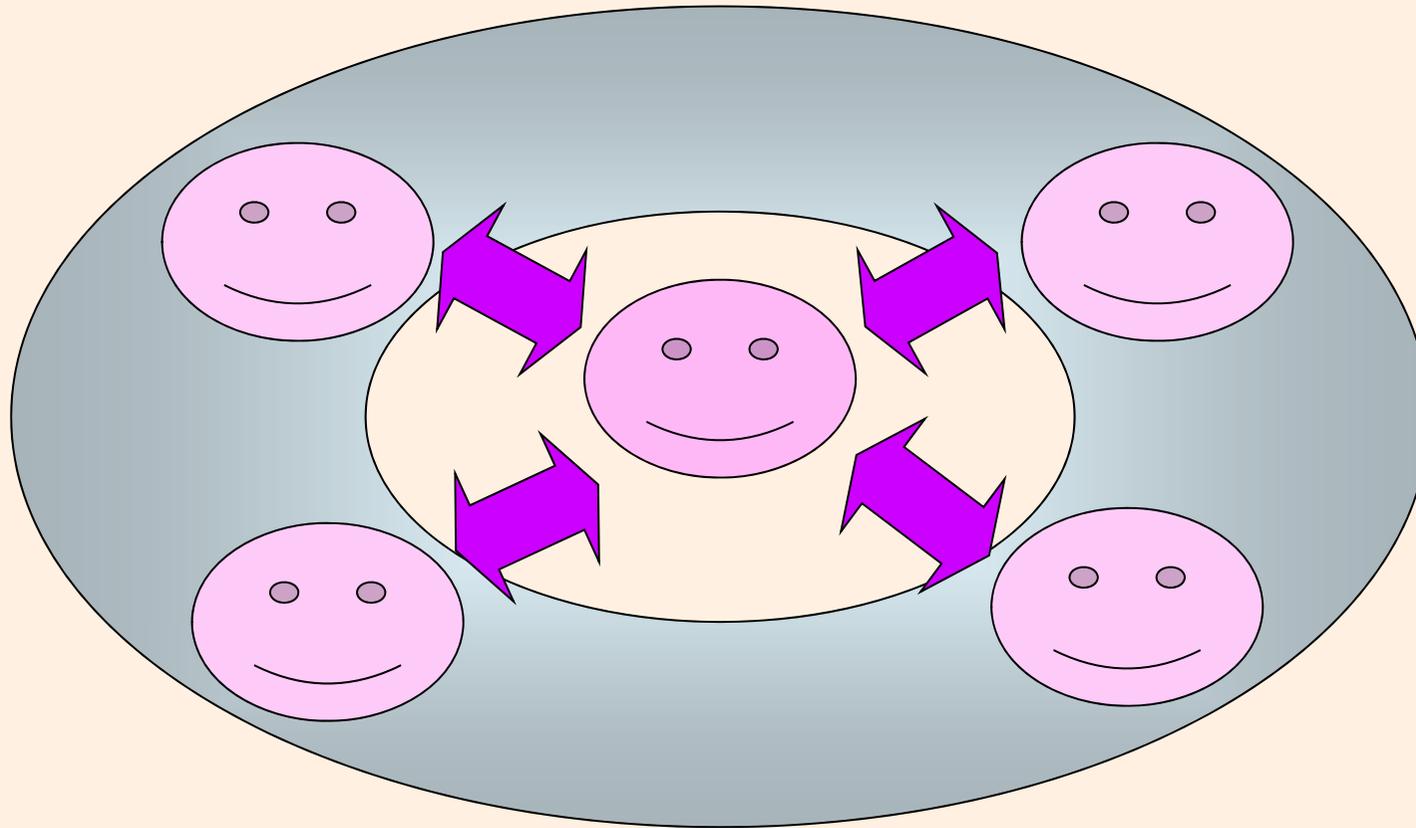
## 【事例2】におけるコンフリクトの学び 【課題3】



教室外でもW国出身者と話すようになる。

**【事例1】 【事例2】 の学びの共有化 【課題3】**

学習者Xの学びが教室で共有される



学びのドーナツ (佐伯1995)

## 2.1.6 コンフリクトの意義【課題3】

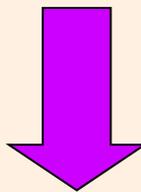
- (1) コンフリクトは，学習者に教室及び教室を超えた学びの機会を与える。
- (2) 学びの経験は，他の学習者にも共有され，クラス全体の学びを促す。
- (3) 学びの経験は，クラス活動終了後の学習者の学びを促す。

## 2.2 B段階：実践現場への活用

<b>A.会話 データ分析</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・日本語クラスの実践研究における教室談話の分析</li></ul>
<b>B.実践への 活用・改善</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・教師の「省察」の促進</li><li>・日本語学習のあり方や教室活動の意義の再考と再解釈</li><li>・授業改善</li></ul>
<b>C.社会的 貢献</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・他の教育現場や実践者との問題の共有化</li><li>・経験と知見の還元</li><li>・学習者の社会性の育成</li></ul>

## 2.2.1 実践現場への活用

- (1) 協働による教師の省察の促進
- (2) 日本語学習のあり方や教室活動の  
意義の再考と再解釈



(担当教師及びボランティアに  
対するインタビューより)

授業の改善・教師の成長

# (1) 協働による省察の促進

## ① 省察

シヨーン (2001, 2007)

「行為の中の省察」 (reflection in action)

- ・ 反省的実践家による活動の流れの過程で生じては消えていく探求としての思考。

- ・ 「状況との対話 (conversation with situation)」として遂行される活動中の思考に加え、

「行為の後の省察 (reflection after action)」, 実践の事実を対象化して検討する

「行為についての省察」 (reflection on action) を包括的に表す。

## ②協働

### 教師とボランティアによる協働

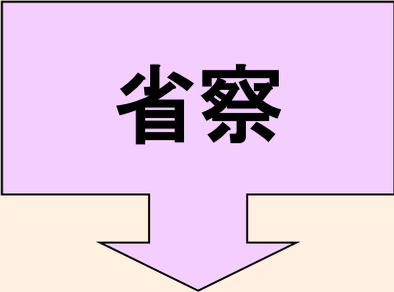
⇒協働するための共通認識を得る資料

- シラバス
- 授業記録
- 教室活動の会話データ
- インタビューのデータ

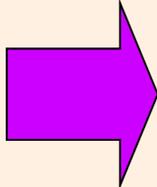
### ③協働による省察で得られたこと

- 担当時間以外の学習者の相互行為の詳細を知る。

省察



- a. 活動全体の再構成
- b. 新たな気づき
  - 学習者の特性
  - 言動の意図
  - 出来事の因果関係



授業の改善  
教師の成長

## (2) 日本語学習のあり方や教室活動の 意義の再考と再解釈

再考・再解釈	分析前	分析後
コンフリクト	否定的	肯定的 教室活動に有効 利用すべき
日本語教室	ことばの 学びの場	ことばの学び＋ 人間関係の学び

教師/分析者にとって

## 2.3 C段階：社会的貢献

<b>A.会話 データ分析</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・日本語クラスの実践研究における教室談話の分析</li></ul>
<b>B.実践への 活用・改善</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・教師の「省察」の促進</li><li>・日本語学習のあり方や教室活動の意義の再考と再解釈</li><li>・授業改善</li></ul>
<b>C.社会的 貢献</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・他の教育現場や実践者との問題の共有化</li><li>・経験と知見の還元</li><li>・学習者の社会性の育成</li></ul>

## 2.3.1 社会的貢献

- (1) 一つの実践現場から他の実践現場へ  
経験や知見を開示し，他の実践現場の  
改善や実践者の成長に寄与する。
- (2) 教室から社会へ  
日本語能力に対する不安を取り除き，  
学習者の偏見を解き，次のステップ  
（教室外の社会）へ送り出す。

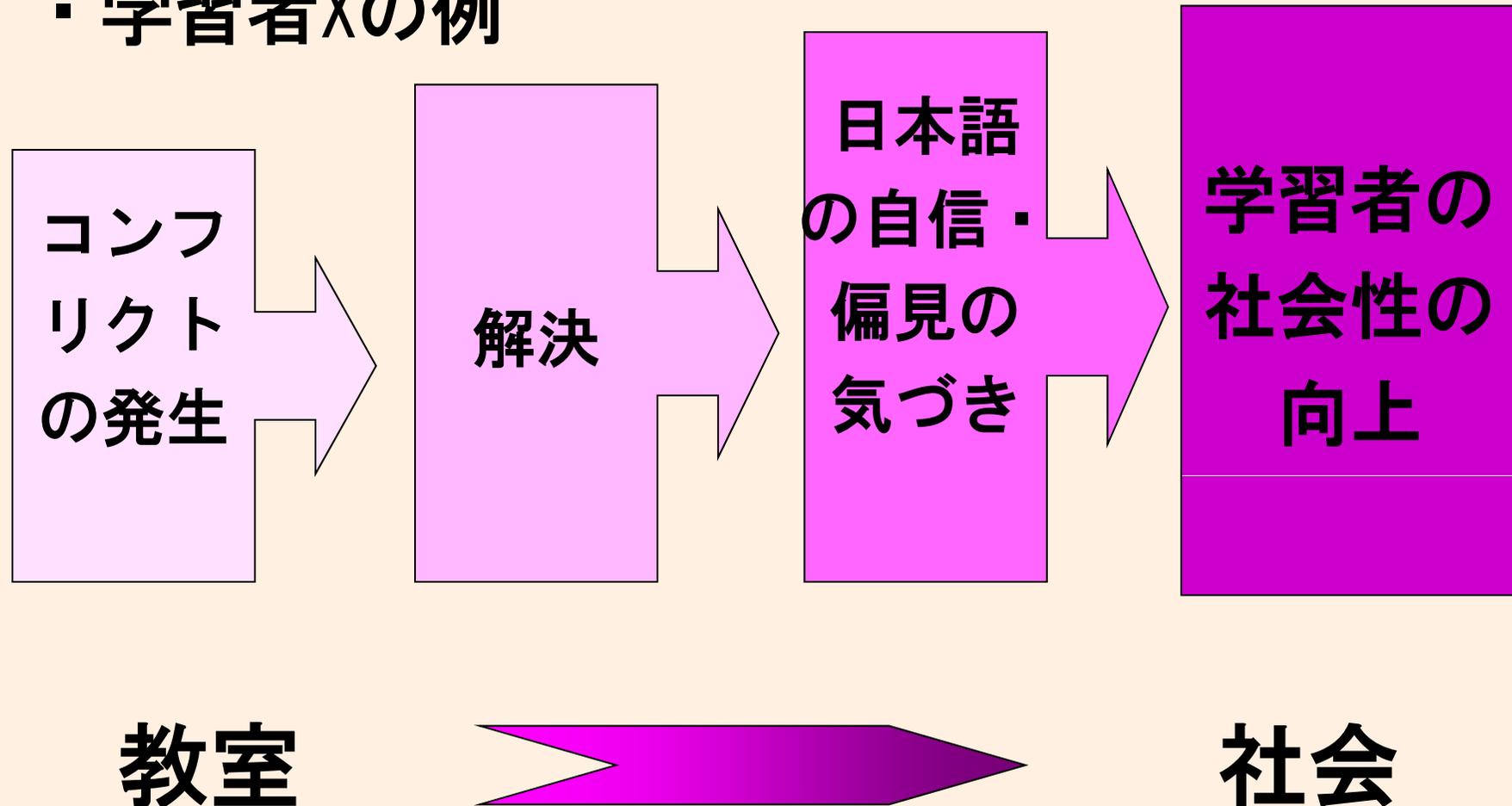
## 社会的貢献（1）

### 一つの実践現場から他の実践現場へ

- ① 「学習者の主体性を活性化する活動デザインー  
学習者が検討した「評価」の活動とその実際ー」  
2009年度日本語教育実践研究フォーラムWEB版  
実践報告（村上他2009）
- ② 「教室活動における参加者の関係調整と合意形  
成の相互行為分析ー学習者の学びを促すコンフ  
リクトの発生から解決の過程を通してー」  
2010年度日本語教育学会秋季大会予稿集  
（寅丸他2010）

## 社会的貢献（2）教室から社会へ

### ・ 学習者Xの例



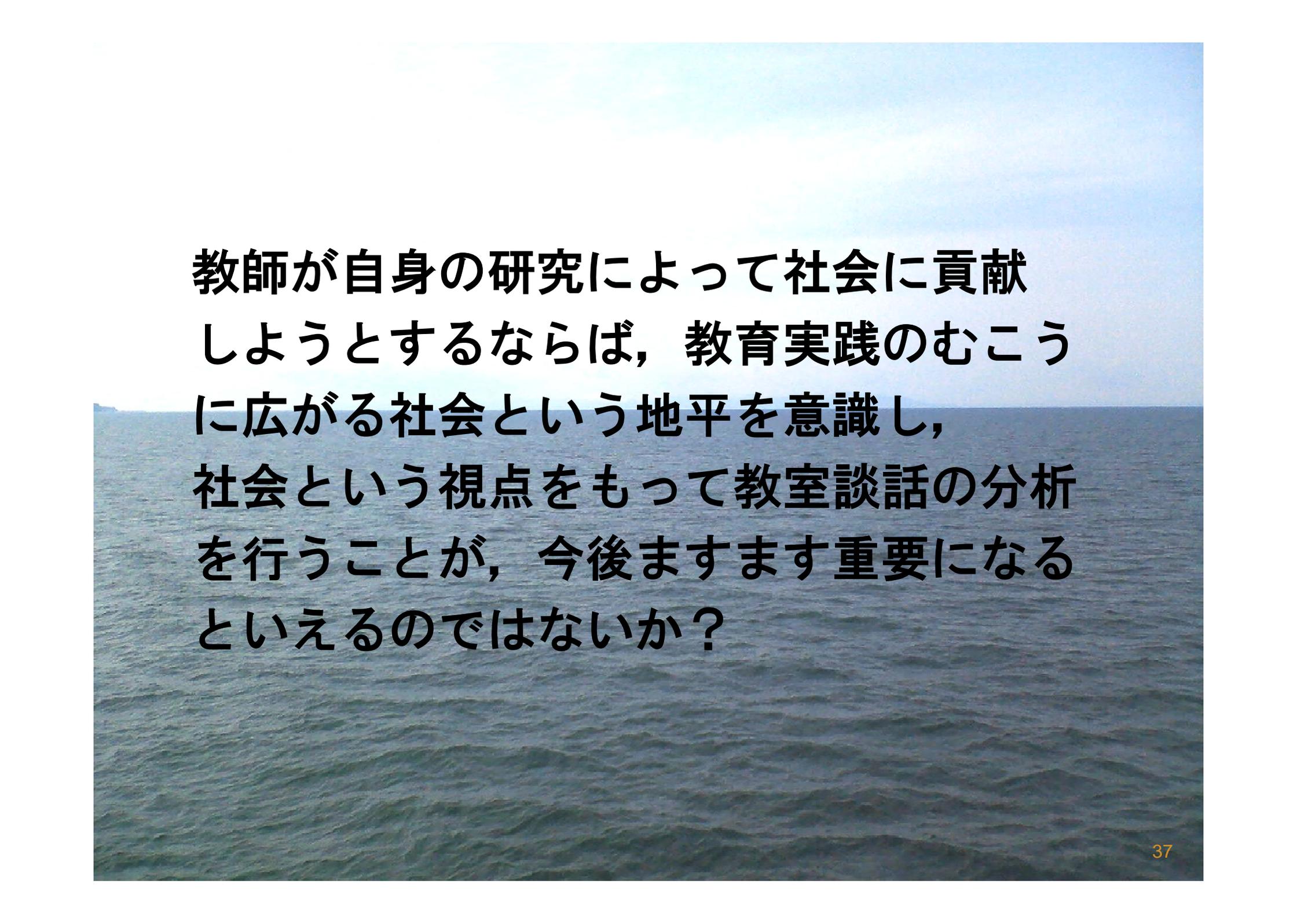
## 3. まとめ

### 教室談話の分析

【A段階】 教室活動の**実態**を明らかにする。

【B段階】 教師の**省察**と**成長**を促進すると同時に教室活動における出来事や活動の**意義**を**再考・再解釈**する機会を与える。

【C段階】 他の実践現場に**開示**することにより、社会に貢献できる可能性をもつ。



**教師が自身の研究によって社会に貢献しようとするならば，教育実践のむこうに広がる社会という地平を意識し，社会という視点をもって教室談話の分析を行うことが，今後ますます重要になるといえるのではないか？**

# 参考文献

- 佐伯胖(1995)。「学ぶ」ということの意味 岩波書店。
- シヨーン, D. A. (2001)。佐藤学, 秋田喜代美(訳) 専門家の知恵 ゆみる出版。
- シヨーン, D. A. (2007)。柳沢昌一, 三輪建二(監訳)。省察的実践とは何か—  
プロフェッショナルの行為と思考 鳳書房。
- 寅丸真澄, 村上まさみ, 森林謙 (2010)。教室活動における参加者の関係  
調整と合意形成の相互行為分析—学習者の学びを促すコンフリクトの発生  
から解決の過程を通して—2010年度日本語教育学会秋季大会予稿集,  
pp.177-182.
- 寅丸真澄 (2011)。日本語の教室における意味の構築とアイデンティティ  
形成—ことばの意味世界を共同構築する〈私〉〈他者〉〈教室コミュニ  
ティ〉。細川英雄(編) 言語教育とアイデンティティ—ことばの教育実践  
とその可能性 春風社 pp.199-220.
- 村上まさみ, 寅丸真澄, 森林謙 (2009) 学習者の主体性を活性化する活動  
デザイン—学習者が検討した「評価」の活動とその実際—。2009年度  
日本語教育実践研究フォーラムWEB版報告

---

**ご清聴ありがとうございました。**